

計画期間
令和 8（2026）年度から令和 12（2030）年度までの 5 年間

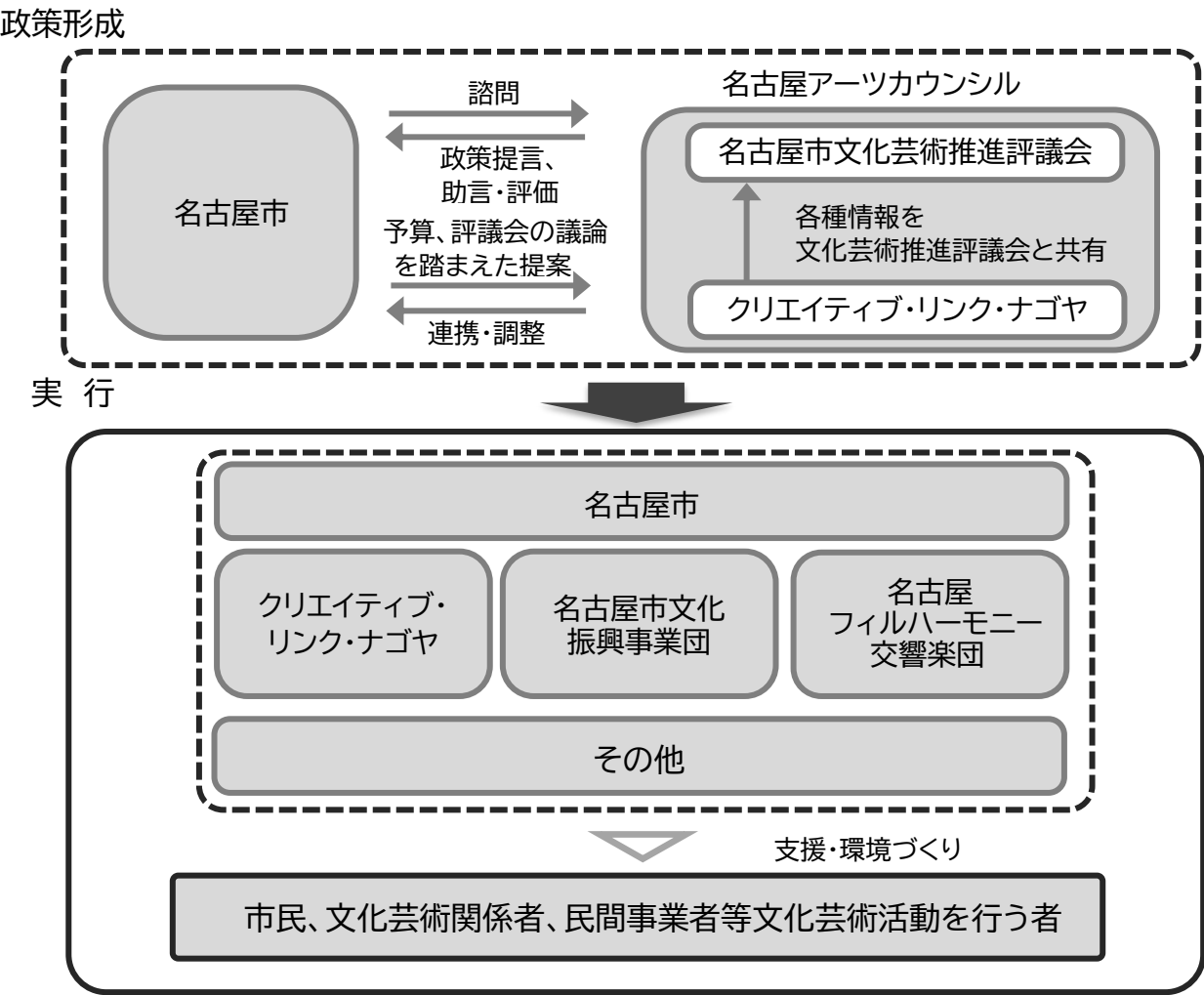
名古屋市文化芸術推進計画 2030(案) 概要版

■ スローガン

日常に文化を、名古屋に彩りを

今もこのまちの日常に根づく、「芸どころ名古屋」の気風は、独自の文化芸術とともに受け継がれ、社会に活力を生み出し、その力が文化芸術活動をさらに活性化させてきました。

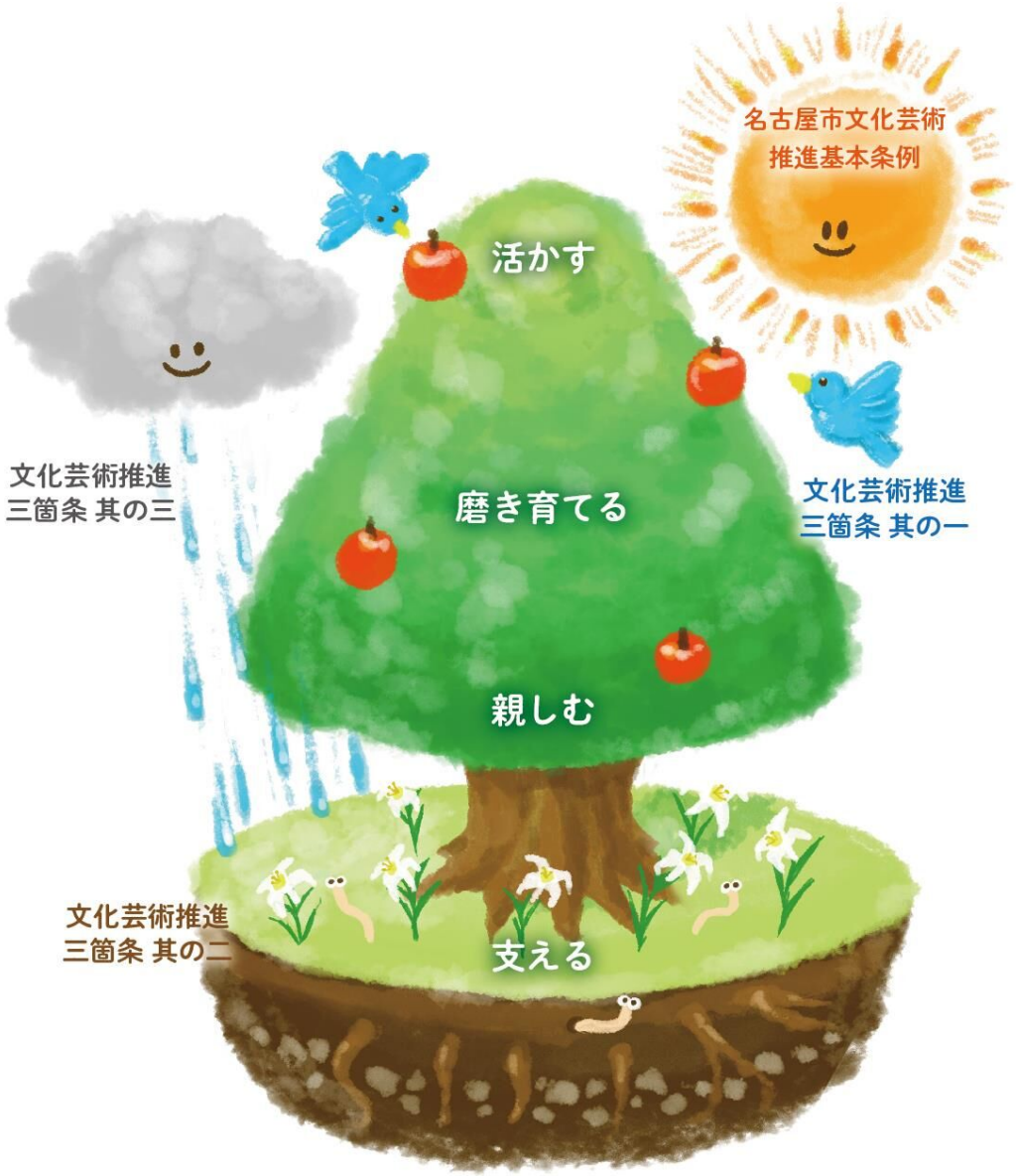
本市は、時代の変化を見据えながら、文化芸術への親しみを広げ、磨き育て、その力を多様な場面で活用し、文化芸術活動を支える基盤を整備することで、日常が文化芸術で満たされ、このまちに根差した文化芸術が持つ多様な価値が活きる、彩りあふれる名古屋を目指していきます。



■ 評価方法

【KGI:成果の最終目標を定量的に評価する指標】

指 標	現状値	目 標	出 典
名古屋を文化的なまちだと思う市民の割合	70.6%	78%	総合計画 ・現状:R7



■ 施策の展開

文化芸術推進三箇条

其の一 文化芸術の振興及び他分野連携を推進します

本市の文化芸術を推進し、都市の魅力向上を図る名古屋アーツカウンシルを軸に、名古屋市文化芸術推進評議会からの政策提言、助言・評価を受けながら、クリエイティブ・リンク・ナゴヤ、名古屋市文化振興事業団、名古屋フィルハーモニー交響楽団とともに、市民、文化芸術関係者、民間事業者の自発的な活動の場を整え、文化芸術の振興及び他分野連携をより一層推進し、文化芸術が創出するさまざまな価値を活かすことで、まちの魅力と活力を生み出します

其の二 多様な文化芸術活動の拠点として文化施設の整備・管理運営を推進します

市民が文化に触れ、学び、表現し、繋がっていく基盤である文化施設について、時代に応じてその役割を果たし続けられるよう、適切な維持保全、改修等を推進します
市民会館はまちに開かれた「新たな劇場」として整備し、誰もが気軽に文化芸術に触れられる中核施設として、貸館事業や自主事業などでの多様な取り組みにより「文化芸術の裾野拡大」を図ります

其の三 文化芸術を支える財源の確保に努めます

文化芸術を継続的に支えるため、国費・県費・民間資金の活用及び個人寄附等により、文化芸術に係る財源の確保に努めます

